

今春30年ぶりに復活した小樽商科大の学生サークル「相撲研究会」が5月下旬、名古屋市で開かれた「全国国公立大対抗大会」に初出場した。事前の予想を覆し、初勝利を含む2勝の快進撃。出場7チーム中4位に輝き、選手たちは歓喜に沸いた。

研究会は1991年に発足。北大と定期戦を行うなど活躍したも

一度しか練習していない選手も含めての大会出場。「今年は経験することが重要」と臨んだところ、北大に敗れて迎えた第2戦で東北大に八十島さんと4年生2人が勝ち、3―2で初勝利した。

第4戦の東大にも勝ち、2勝4敗と上々の結果に、「失うものはないと、みんなで思い切りぶつかったのが良かった。弱くても勝つ



## 今日の話題

## 相撲研の復活

の、設立メンバーの卒業で90年代半ばに活動休止となった。

復活に動いたのは設立メンバーの一人で札幌在住の道職員、八十島忍さん(55)。昨年5月に当時の3年生1人、今年4月に4年生2人と1年生1人の勧誘に成功。ついには自らも、科目単位で学べる科目履修生として「大学生」になり、競技会団体戦での単独出場に必要な5人を実現した。

ことがあるのが相撲の面白さ」と力を込める。

4年生が来春卒業すれば、また会員不足に陥る恐れがあるが、「今回の活躍を大学内で訴え、勧誘していく。会員を増やし、来年は選手ではなく監督として行けるようにしたい。せっかく復活したのだから今回は続くように」。

八十島さんは、そう意気込んでいる。  
(佐藤 宏光)